

## **1. 目を閉じれば山・川・海 ～自然と歩むまち松阪～**

(内包する要素：1次産業 自然保全 生産者 など)

松阪の風土を形作る、“まち”の最も基本となる分野です。

人間も天然自然から生まれたもの。1次産業の分野（水田や里山、林業、水産業など）はすでに生態系に組み込まれており、水田や里山の保水力などは防災などにも直結します。

1次産業従事者の働き手の減少は著しいですが、法人経営体は増加傾向にあり、6次産業や木材の新しい利用法（CLT建築等）などの新しい可能性の萌芽もあります。

この分野が充実していると、松阪の豊かな自然は守られ、災害被害に強い強靱な“まち”になるでしょう。

また、豊かな自然からは「美味しい食べ物」も供給され、「食事が美味しい」市町村ランキングが全国で5位（地域ブランド調査2018年 ブランド総合研究所）からより上位を狙えるかもしれません。

## **2. 見わたせば安心安全 ～市民の命守るまち松阪～**

(内包する要素：安全な暮らし 上下水道 交通環境 エネルギー施策 など)

人が社会的な生活をしていくうえで必要な基盤に関係する分野です。

交通政策や、防災、公園の整備など都市計画とも大きく関係します。また、先般の大震災ではソフト面での対策が人の命を守ることに大きく関わることが証明されました。治安や防災、交通政策などはソフト面での充実も必要です。

昨今はエネルギーの自由化に伴い、小水力やバイオマスなどエネルギーの地産地消や分散型エネルギーなどの新しいエネルギー施策の萌芽もあります。

この分野の充実は、防災対策やエネルギー施策が進んだ豊かな生活基盤の形成につながるでしょう。

## **3. 気が付けば健康長寿 ～活力みなぎるまち松阪～**

(内包する要素：医療 健康福祉 スポーツ など)

健康で文化的な生活を担保する上で必要な分野です。

人は必ず“不健康”な状態（≡社会的弱者）（ゆりかご/墓場）を通過します。また、容易にその状態に陥ります。心身ともに“健康”であり続けることは困難です。“不健康”にならないための予防や、“不健康”になっても“健康”な状態に戻ることが容易くなるよう、医療や福祉に力を入れる必要があります。

この分野が充実していなければ、弱者が切り捨てられる“まち”となり、多様な人が活躍することが困難となるでしょう。

## **4. 道を歩けば子どもの声 ～子どもから笑顔広がるまち松阪～**

(内包する要素：教育 子育て環境 など)

少子化直面中、人口減進行中の現在、自治体を持続可能とするために最も変化と成長を求められる分野です。

共働きや核家族化、少子化による学校の統廃合、多文化共生（外国人の子どもの増加）など社会の変化にさらされています。子どもの貧困の問題も無視しえない大きな問題です。また、子どもに対する教育のみならず、大人の学ぶ場も必要となるでしょう。子育て

のための教育（ex.父親の子育て参画）もこの分野の問題です。

この分野が充実していると、多種多様な人材が育ち、外からの人を引き付ける松阪になるでしょう。

## **5. 耳をすませば鈴の音 ～歴史と生きるまち松阪～**

（内包する要素：歴史・風土 など）

松阪に多様性と豊かさ、アイデンティティーをもたらす部門です。

重要性が見えづらい分野ですが、“まち”を“ひと”に置き換えて考えてみましょう。自分がどんな人間かわからず、教養もない“ひと”が豊かな人生を送ることができるでしょうか。「歴史」（自分）を知り、「文化」（教養）を育むことは豊かな“まち”を作り、多様な関係性を生み出すでしょう。

松阪にも様々な歴史や文化が根付いています。魅力やルーツの再確認は非常に重要です。また、文化は新たに作ることもできます。例えば、30年後には松阪に「スケートに端を発する文化」が根付いているかもしれません。

この分野が充実すると、魅力的で、住人は自信を持ち画期的な松阪となるでしょう。

## **6. 口を開けば「まいどおおきに」～商人のまち松阪～**

（内包する要素：経済産業 特産物 雇用 など）

雇用の場、金を稼ぐ場、消費をする場。2・3次産業に強く関係する分野です。

従来からある製造業を含め、福祉の分野や、1次産業への付加価値の追加（6次産業化）など新たな働く場が生まれています。既存の枠組みに囚われない働き方も生み出す必要があります。

また、人口減少社会である中、様々な状況にある人（障がいがある人や子育て中の人）にも活躍してもらうこと（活躍できる場づくり）が求められています。

この分野の充実、松阪に活気と税収を生み、ときには移住者を呼び込み、持続可能性を高めることとなります。

## **7. 躍動せよ！松阪人 ～市民の鼓動が響き合うまち松阪～**

（内包する要素：市民活動 イベント 市民のための市役所 など）

“ひと”や“団体”など、松阪において必要不可欠な存在を担当する分野です。

当たり前ですが、“ひと”がいなければ自治体は存在しえません。住民協議会に代表されるような、住民団体や市役所などの組織も必要でしょう。様々なステークホルダー（利害関係者）が存在すればするほど“まち”は豊かとなるでしょう。

現在は人口減少が進行中で、“私”と“公”ではない“共”（協働）としての役割を求められる時代となっており既存の組織だけでなく、（某県知事の言葉を借りると）アクティブ・シチズンが必要となっています。

常に新鮮な血液を送り出す心臓のように、自ら考え、動く“ひと”が必要とされている現在、この分野の充実、松阪を躍動させるでしょう。